

「灰の山に碗や皿をかくしたのは誰か」－意見文－

ディベート後に個人で作成した意見文

わたしは、ヤンおばさんが一番あやしいと思う。そのわけは2つある。一つは、ヤンおばさんが第一発見者だということである。そして、もう一つは、金持ちの「わたし」から物をもらってもかまわないと考えていたことである。本当は、だれにも見つからずにやろうとしたのだけれども、見つかってしまったので、他の人に罪をなすりつけようと考えたのではないか。

灰の山に隠したのは「わたし」である。なぜなら、ルントウは「わたし」にとって親友だからである。ルントウにできるかぎりのことをしてやりたいという思いやりの心が彼を動かしたのである。「わたし」とルントウは、身分は違っても少年時代の親友であり、現在の心の友なのである。友が困っていれば助けてやりたいと思うのが当然である。

犯人はルントウであると考えます。まさかルントウが、そこまではしないだろうと思われがちですが、ルントウをこのような行動に走らせてしまう当時の中国の様子がよくわかります。世の中が、人の心まで変えてしまうことを、この作品は描いているのだと思います。その象徴が、ルントウでありヤンおばさんであり、「わたし」とルントウとの関係の変化なのだと思います。

実は、シュイションとホンルである。理由は一つ。父親を喜ばせるためである。シュイションは、日頃から父親が苦勞している様子を見ており、生活が楽ではないことも、子どもながらに感じていると思われる。物を盗むことの罪悪感よりも、子どもらしく遊び半分で、少しでも父親に喜んでほしいと考えたのではないか。

「わたし」がもし、碗や皿をルントウにあげるために、灰に埋めたと考えたとしても、わざわざ灰に埋めないで、手で直接渡せばいいことだから、やらないと思う。そうすれば、昔のように話すチャンスができるかもしれない。

誰にでも可能性はあるが、決め手はない。ヤンおばさんが一番あやしいが、他の人かもしれないという思いは拭い去れない。この件、すなわち灰の中の碗や皿のことが描かれているのは、当時の中国の社会情勢を色濃く映し出す役目を果たしているのではないか。